



デルフザイル市友好親善訪問団に参加して

山口県桜ヶ丘学園晃英館中学校 2年

坂井 大悟

Dai go Sakai

僕がデルフザイル市友好親善訪問団に参加しようと思った理由は、日本語が通じない所で自分がどれだけ人とコミュニケーションをとることが出来るかチャレンジしてみたかった。また異国の文化や食事を経験してみたかったからです。

八月四日にホストファミリーのボス家の皆さんと対面しました。ボス家は4人家族で、お父さんがハヨー、お母さんがイングリド、長男がウエスリー、長女がケルシーと言います。最初はホストファミリーの皆さんが話しかけてくれても、早く答えないといけないとあせってしまい、言葉が出てこなくなると、会話をすることが上手くできませんでした。しかしそんな僕をボス家の皆さんは暖かく迎えてくれました。その日の夕食、初めてオランダの家庭で食事をしました。知ってはいたけれども、本当に主食に芋が出たときはびっくりしました。他にもサラダやお肉がでたのですが、どれも美味しかったです。夕食の後にボス家の皆さんとニンヨウ犬の散歩に出かけました。少し歩くと海が見えてきました。ボス家のお父さんが海の反対側に見えるのがドイツだということ教えてくれました。そうやっていろいろな会話をしているうちに僕もだんだんと普通に落ち着いて話せるようになりました。

五日は交流会がありました。みんなでイカダを作って川に浮かべて乗ると、見事に落ちてずぶ濡れになってしまいました。けれども、一緒に落ちたケルシーと笑いあうと、なんだか楽しくなり、言葉はあまりわからなくても気持ちを通じ会えるんだと分かりました。



- 1 お世話になったホス家のみなさんの写真です。
- 2 交流会で作ったボートに乗った瞬間に撮ってもらった写真です。
- 3 ニシンを生のまま食べました。
- 4 お別れ会で歌を歌いました。歌う前は笑っていたのに歌い始めると泣きそうになりました。



六日の夕食では、ホストファミリーと一緒にパンケーキを作って食べました。パンケーキだけでも甘いのにそれにシロップや砂糖をたっぷりかけるのを見てびっくりしました。

他にも滞在中に、すごく甘い生クリームがかかったアイスやすごく大きいプリンが出たときは目が点になりました。オランダはすごく甘党なのではないかと思えます。

七日のホストファミリープログラムでは教会に行きました。神父さんの言っていることは分からなかったけれども厳かな雰囲気だけは感じ取れました。帰りに雨が降ってきて、あと二日しかいけないことに気付き、なんだか寂しくなったことを思い出します。八日にはお別れ会がありました。お礼の出し物で、みんなが歌を歌っている時に、ホス家のみなさんの顔が見えて、やっと仲良くなれてきたばかりなのに明日の朝にはお別れしなくてはいけないと思うと悲しくて泣きそうになりました。

そして翌朝帰りのバスに乗る直前に、イングリッドに抱きしめられました。バスが動き出して力いっぱいホス家のみなが見えなくなるまで手を振っていると、涙が出てきました。本当にしつらかったです。

今回のホームステイで、日本の文化だけではなく知ることができ、自分の中の世界観を広げることができました。今後もチャンスがあれば、いろいろな国の文化を自分で体験して学んで、コミュニケーション能力を上げていきたいです。



平成 23 年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

ステイ先のバフィンガパパとママと。
お別れ会の時に記念撮影（私は前列右）。
温かい眼差しは忘れません！

デルフザイル市友好親善訪問団に参加して

山口大学教育学部付属光中学校 1年

温品 初音

Hatsune Nukushina



幻想的な霧が立ち込める中、早朝のスキポール空港に向かつて飛行機は、ゆっくりと降りて行きました。見渡す限りの緑の草原が近づいてきて、まるで絵本の一ページに入って行くような感じがしました。トランジットで立ち寄った真夏の香港から十三時間、やっとオランダに到着した時は家を出発してから二日も経っていて、しみじみと地球は広大だと実感できました。幸いに時差ボケも疲れも感じなかったので元氣一杯でアムステルダムに入ることができました。

アムステルダムの街は、どこを見ても美しく、歴史ある建物や街並はすばらしかったです。有名なレンブラントやフェルメールの絵画を生で見たことに大感動し、中でも一番楽しみにしていたアンネの家は衝撃的でした。

もっと人里離れた所に建っていると思っていたので街の真ん中にある隠れ家なんて想像できませんでした。私は、ここで現在の幸せを心の底から感謝し、永遠に続く世界の平和を願いました。

デルフザイルで、木靴を履いた音楽隊に迎えられてずっと到着したと嬉しくなりました。

ホストファミリーのバフィンガ家には、萌絵ちゃんと二人で滞在させて頂いたので不安や心配も半分でホームシックにかかることもなく過ごせました。言葉のハンデを心配していましたが身振り手振りで充分に心は通じて理解することができました。世界は広いけれど同じ人間です。一番大切なことは理解しようとする心と笑顔でした。もちろん、もっと英語がわかればたくさん話をする事ができたので今から英語をしっかり勉強していきたいと思います。交流会では、いかだ作りをしたり縄渡りなど、小さい時に戻ったみたいになりました。その中にはロープの結び方だとか体験しないと学ぶことのできない、生きて行く為の知恵を学ぶことができたと思います。災害の多い

現在、生きて行く力が重要です。こんな体験が大切だと一番心に残っています

蒸し暑い日本と違ってオランダの夏は涼しくて朝晩はひんやりしていました。そんな中オランダの伝統的な温かいおいしいスープがありました。粒マスタードが入ったクリームスープです。乳製品王国だけあって牛乳やチーズは濃厚で甘く忘れられない味になりました。一つだけ心残りがあって、魚好きの私はニシンが食べられなかったのが残念でした。

「オランダに行ってみない？」との両親の一言から始まった、九日間の旅は、私の今後の人生について深く考える時間を持つことができました。帰国した今、自信を持って大きく成長できたと言えます。すばらしい仲間に出会った事、デルフザイルに温かい家族ができた事、すべて私の一生のかけがえのない宝物となりました。

憧れのヨーロッパ、オランダへの夢が叶い旅する機会を下さった周南市と気持ち良く見送ってくれた両親に感謝いたします。



1



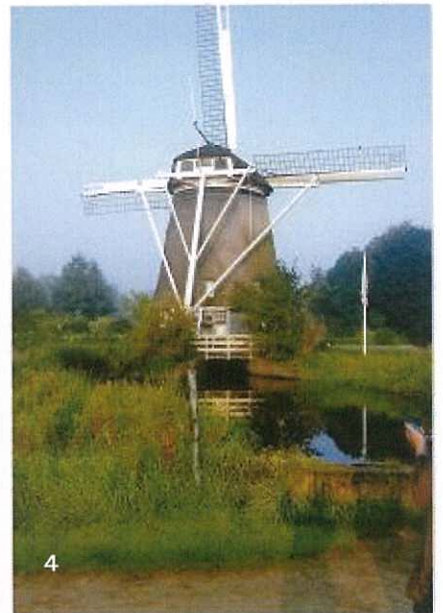
3



2



5



4

- 1 木靴工房の前で。大きな靴を履きました。木靴は歩きづらかった。
- 2 一緒にホームステイした萌絵ちゃんと港町で。
- 3 私が一番気に入ったオランダの味。マスタードスープといってオランダの伝統的なスープなんだそう。
- 4 アムステルダムに着いて初めて見た風車。この風車の中では普通に人が暮らしているそうです。あこがれます。
- 5 ホストファミリープログラムでお世話になった、ブーンストラ家の皆さんと。
オランダの民族衣装を着て、木靴を履いて、気分はオランダ人！

平成 23 年度

Delfzijl

友好親善
訪問団



ホストファミリーのブーマン家のみなさんと
家の前で撮った写真です（私は前列右）。
とても親切にして頂きました。

デルフザイル市友好親善訪問団に参加して

山口県立徳山高等学校 2年

金澤 美里

Misato Kanazawa

私がこのデルフザイル市友好親善訪問団に参加したのは、日本語が使えない環境で自分の気持ちを伝える方法を学びたいと思ったからでした。また、将来の夢を決めるきっかけをつかみたいとも思っていました。

私はこの訪問団に参加して、それらの目的を果たすことが出来たと思います。始めのころは、ホストファミリーの方とはグーグルの翻訳サイトを使って会話をしていました。最終的には、英語とジェスチャーでなんとなく理解できるようになりました。ある単語で通じなければ、別の言葉で言いかえたり、写真や画像を見せたりすることによって、自分の思いを伝える力も少し身についたと思います。また、将来はオランダ語の勉強をしてみたいと思いました。

しかし、それだけではなく、とても重要なことをデルフザイル市友好親善訪問団で学ぶことができました。文化や習慣など、さまざまな点で違っていても、出会った人々との間には、絆が生まれ、そして、それはかけがえのない大切なものであるということです。私は、ホストファミリーのみなさんと別れるときに、一緒に過ごした日々を思い出して、さらに、もう簡単に会えなくなってしまうと感じ、とても寂しくなりました。お別れをした後のバスの中でも、オランダの人々が、にっこりと笑いかけてくれたことや、親切にしてくれたことを思い出していました。確かに、外国に行ったときには、自国での生活と違つので困難なことも多くあります。私も相手が何と言ったのか分からなかったり、日本にはない自転車道でスピードを出して走ってくる自転車に驚いてぶつかりそうになったりしました。



- 1 エリオスの風車です。小麦をひくのに使っているそうです。とても綺麗でした。
- 2 ホストファミリープログラムでは船でドイツのボルクンに連れて行ってもらいました。ここに写っている方はマライケさんで日本語を勉強されています。
- 3 送別会の様子です。感謝の気持ちをこめて、『となりのトトロ』をうたいました。
- 4 ドム塔から撮ったオランダの街並みです。とても綺麗な家や運河がありました。



しかし、ホストファミリーのみなさんをはじめとする多くの人が、困っている私を助けてくれました。そして、困ることがないように、アドバイスをしてくださいました。また、日本の文化について紹介したときに、上手に話せなくても、笑顔で聞いてくれました。このように、温かく接してくださったおかげで、思いやりと笑顔によって困難を乗り越えられるということに気づきました。そして、思いやりと笑顔によって絆が生まれるということも学ばせていただきました。

私は、デルフザイル市友好親善訪問団で学んだ絆の大切さと、絆を生み出すために欠かせないのは、思いやりと笑顔であるということをしつかりと心に留めておきたいです。そして、困難の多い国際社会で、多くの絆ができるように、思いやりと笑顔を実践したいです。最後に、今回のデルフザイル市友好親善訪問団に協力してくださった方々に感謝いたします。





お別れ会でホストファミリーのポステマさんとお世話になったロビーと撮った写真（私は右から2番目）。この時は本当に帰りたいと思っていました。



デルフザイル市友好親善訪問団に参加して

山口県立徳山高等学校 2年

藤田 彩加

Ayaka Fujita



1



2

私はとても英語に興味があり、将来留学も考えていて、中学生のころからホームステイに参加してみたいと思っていました。だから言葉の分からない国でどれだけ自分が思っていることを伝えられるか試してみたく、今回応募しました。だから今回参加することが決まった時はとても嬉しかったのですが、同時に不安もありました。

オランダまで飛行機に十五時間以上乗っていて、本当に遠い国なんだというのを思い知らされました。

途中、香港での広東料理や有名な夜景にオランダに着く前にすでに感動しました。

オランダに着いた時、日本との気温の違いに驚きました。アムステルダム観光では景色に圧倒され、そしてデルフザイル市ではとても歓迎を受けました。この日は七時間の時差もあつて一日が長くて本当に大変でした。はじめてのポステマ家のホームステイでは、なかなか会話できず、言葉が分からない中で一人であることが寂しくて、正直日本に帰りたいかったです。でも、自分から話して早くここに慣れようとも思いました。



次の日から、自分から話しかけている人々に英語で挨拶していくようにすると、だんだん打ち解けてきて、英語を頑張って話すことが楽しいと思えるようになりました。

三日目の朝ファームサムに着いて私が目をかいていたら、ホストマザーのマリヤと友人のロビーがわざわざロビーの家まで薬を取りに行ってくれたことが本当に嬉しかったです。その後、シーポーツ社やエムスハーフェンに行きました。夕食のパンケーキは話しながら楽しく食事をしました。次の日がホストファザーのステファンの誕生日だったので、家に帰ってからステファンの両親や近所の人と一緒に過ごし、その時に折り紙を教えるとても喜んでもらえました。次の日は、マリヤとロビーと運河でボートに乗ったり怪我をしたアザラシを保護している所や風車に行ったりしました。こっそりアザラシの人形を買ってプレゼントしてくれたり、私のために一度通り過ぎた風車に戻ってくれたり嬉しいことばかりでした。

- 1 ホストファミリープログラムで水上ボートに乗った時の写真。運河沿いにたくさん家があって、庭から釣りをしたりしていて羨ましかったです。
- 2 ホストファミリープログラムで怪我をしたアザラシを保護している場所にあったもの。アザラシに引っかかって怪我をさせていた漁業用の網が積み上げられていました。
- 3 エオリスの風車の前で記念撮影。写真で何度も見ている風車を実際見て感動しました。中には周南市の風車の写真もありました。
- 4 ホストファミリーや近所の方に折り紙を教えている様子。完成した時はとても喜んでもらえました。
- 5 農場で牛の乳しぼりを間近で見たときの写真。初めて農場に行って、機械で搾乳するところを見て驚きました。

次の日、エオリスの風車や教会を見て回って、その後農場で牛が生まれる瞬間を見た時は感動しました。お別れ会でトトロを歌う時、最初は早く帰りたいはずの私が帰りたくなくて泣きそうになりました。

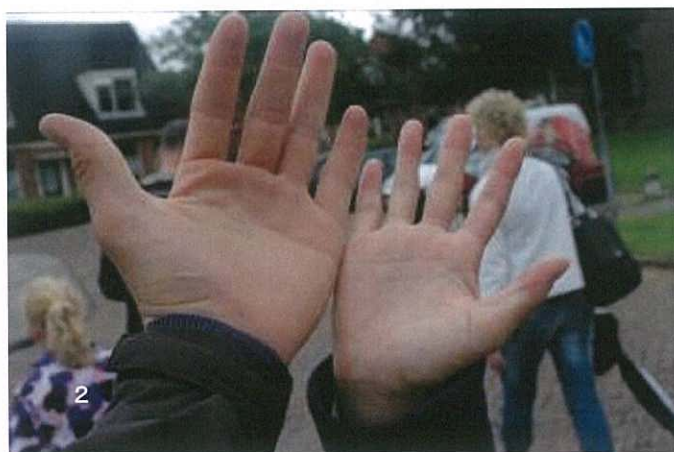
最後の朝、バスに乗る前に号泣してしまいました。最後にDance me and say itと言ってホストファミリーとロビーにメッセージボードを渡してデルフザイル市を出ました。ユトレヒトでは大好きなミッフィーや珍しいオルゴール、ドム塔からの景色を見ることができて良かったです。

また長い間飛行機に乗って日本に着いた時は少しほっとしました。今回この訪問団に参加して本当に良かったです。思ったより英語で会話も出来て、もっと英語を勉強したいと思いました。そして、絶対にまたオランダに行くこと決めました。他の国の人と話すということの楽しさを知ることできて、とても貴重な体験になりました。





- 1 お別れ会で撮った家族全員の写真（私は右から2番目）。私が一番小さかったので、一番年下のよう。これがみんなで撮った最初で最後の写真。
- 2 次男 Lex (17) と私 (17) の手。同じ年なのにこんなに大きさが違うことに家族は笑って、写真を撮った。オランダの人たちはみんな背が高くて驚いた。



デルフザイル市 友好親善訪問団 参加して



山口県立徳山高等学校鹿野分校 3年

神田 千愛

Chiaki Koda

初めての海外経験で楽しみな反面、ホストファミリーと仲良くなれるのか、うまくコミュニケーションをとることができるのかどうか不安だった。けれど、とても親切なホストファミリーのお陰で一生の思い出になるような、素晴らしい経験をすることができた。

ホストファミリーと初めて会った時、みんな笑顔で握手をしてくれて緊張が和らいだ。その後、家へ向かう前に父の Hans と少し話をした時、彼が言ったことを全て理解することができず、「どう言ったらいいのだろう。」と彼を困らせてしまった。その日の夕食時にもそういったことがあったけれど、ホストファミリーのみんなが、色々な言葉や表現を使って私に伝えようとしてくれた。そのお陰で理解することができ、質問にも答えることができた。お互いに言いたいことが伝わらない時、とてももどかしかった。けれど、伝わったときの喜びや、ホストファミリーのすっきりとした笑顔は、今でも忘れることができない。しかし、それと同時に、自分の意見を伝えることはできるけれど、相手の英語を聞き取ることが苦手だと、改めて実感させられた。

積極的にコミュニケーションをとることを自身の課題にしていたので、毎日自分から話しかけることに挑戦した。短い会話だけで終わってしまっこともあったけれど、疑問を抱いていた時には質問をしたり、感情を表情や言葉で表現することで長く会話を続けることができた。



3



4



5



6

「おいしい」「ありがとう」「おやすみなさい」などの簡単な言葉でも、オランダ語で伝えると、私のホストファミリーだけでなく、他の家庭のホストファミリーの方もとても喜んでくれた。毎日オランダ語を言っていたので、私が知らない言葉や、オランダ語の独特の発音も教えてくれた。逆に私が、「こんにちは」という日本語を教えると、母の Margaret が何度も「こんにちは」と日本語で言ってくれ、嬉しかった。言葉だけでなく、食事の前後に手を合わせるの感謝の気持ちであることを教えたり、逆にオランダでも日本のように方言のようなものがあることを教えてもらった。他に、日常の様々な違いも互いにたくさん教え合うことができた。毎日が想像した以上に楽しく、いつ

も笑顔が絶えなかった。娘や妹のように接してくれ、家族の一員であるということを実感することができた。そして、多くの人と関わっていく中で、笑顔に国境はないのだと感じた。別れはとても辛かったけれど、それ以上に出会えたことを心から嬉しく思う。訪問団に参加して、多くのものを得ることができた。さらに、もっと英語力をつけてオランダ語を勉強し、いつか将来オランダに住むという夢もできた。約一週間という短い期間だったけれど、大切な家族ができ、自分の英語に自信を持つことができた。今後は、自らが感じ、体験したオランダの素晴らしさを多くの人に伝えていきたい。

- 3 船でドイツへ行って、いくつかの家族と、4～6人乗りの自転車に乗っているところ。ことタイプの自転車に乗るのは初めてだった。
- 4 朝食と夕食に食べたもの。砂糖のついていないラスクのような丸型のブレッドに切った苺をのせ、たっぷりの生クリームをつけて食べるおやつ。
- 5 デルフザイル市へ行く途中の街並。どの家もデザインが素敵で庭が広い。デザインが豊かなオランダらしい家々。
- 6 バーベキューの後、お土産店に行って、木靴やルームシューズなどを買ってもらったときのもの。このときはサイズを合わせていた。木靴に家族全員の名前を入れてくれた。

平成 23 年度
Delfzijl
友好親善
訪問団

デルフザイル市友好親善訪問団 に参加して

山口県立下松高等学校 2年

田中 ひかり

Hikari Tanaka



ホームステイ最後の日の記念写真（私は左から2番目）。初めて全員そろって写真が撮れました。皆さん浴衣に興味津々でした。

二年前、私は周南少年少女合唱団の一員としてデルフザイル市に訪問したことがありますが、出発前にやはり緊張を感じていました。夏休み以前から部活が忙しく、英語の勉強をほとんどすることが出来なかったため、うまくコミュニケーションをとることができず不安でした。

いざデルフザイルに着くと、現地の落ち着いた雰囲気と緊張していた心をリラックスすることが出来ました。ここで五日間過ごすと思つと楽しみで仕方ありませんでした。

私がお世話になったスリム家は農場を経営しており、その敷地の広さに圧倒され、日本の農業との違いを実感しました。ホストファミリーの人たちは、愉快で笑顔の絶えない人たちがかりました。私はそんな彼らと話してみたくて、少ないホキヤフラリーを必死に使つて家族とコミュニケーションをとろうとしました。私が言葉を分かっていないようならばゆつくり発音してくれたリ、インターネットの日本語翻訳サイトを使つたりして意思疎通を図ろうとしてくれた心遣いに、ホストファミリーの暖かさを感しました。

そんなホストファミリーと過ごす毎日はとても充実していました。オフの日に、いくつかのホストファミリーと一緒に船でドイツに行った時のことは忘れません。みんなで雨の中サイクリングしたり、海に行ったり、アイスクリームを食べたりしました。ホストファミリーとたくさん交流でき、ヨーロッパの雰囲気を味わうことができました。

楽しい時間ほどすぐに過ぎてしまうもので、あっという間にホームステイ最後の日になってしまいました。お別れ会で『となりのトトロ』を歌っている時、「もうスリム家で過ごせるのも最後なんだな」と思い、涙が出そうでした。帰ってから記念写真を撮ったり、日本からオランダまでの旅の話をしたりしました。一緒に笑えてよかった、この家族の一員となれて良かったと改めて実感しました。

別れの時、別れるのが辛くて涙が出ました。泣く私にホストマザーが、「次に会うときはもっと英語が上手になって会いましょうね」と言いました。その時ほど、英語を本気で勉強しようと思ったことはありません。

この五日間、私はデルフザイル市でたくさんのことを学びました。家族の絆や暖かさ、自然の美しさ、国際交流の素晴らしさ。それらは将来の自分にきっと役立つであろうことばかりでした。高校生である今だからこそ、この親善訪問団としてのデルフザイル市訪問はこれからの私への大きな活力となりました。この経験を元に、自分の未来を作って行きたいと思えます。

最後に、スリム家とデルフザイル市の皆さんへ感謝の気持ちを。今度会う時はもっと英語を勉強して、今回よりも話せるようになっておきます。

ありがとう！



1



2



3



4

- 1 ホストファミリーのマリーン。マザーとマリーンと私で神経衰弱をしました。マザーの圧勝でした。
- 2 エオリスの風車の前で。今でも風力で小麦をひいていることに驚きました。
- 3 ドイツの海で。風が冷たい中、現地の人々は日光浴や海水浴を楽しんでいました。寒くないのでしょうか。
- 4 私がホームステイしたスリム家。農場だけに庭もとても広く手入れがされていました。





- 1 ホストファミリーと私
お別れ会の際に撮った写真です(私は左から2番目)。家族の写真なので何回も見てホストファミリーを思い出したいです。
- 2 エオリスの風車と私
周南市にある風車と似ていました。しかし、エオリスの風車は高いところまで入ることができ、大変驚きました。そして風車が小麦を粉にしていることが分かりました。



デルフザイル友好親善訪問団 に参加して

山口県桜ヶ丘高等学校 3年

前岡 里緒

Rio Maeoka



デルフザイル市の訪問団での体験は一生忘れられないものとなりました。その体験を楽しませてくれたのはホストファミリーでした。
私たちは八月四日にデルフザイルの市役所に着きました。バスの中で準備を待っていた私に一人の女性が手を振ってくれました。ホストマザーでした。自分に気づいてくれたことを大変、嬉しく思いました。これが私とホストファミリーの出会いでした。

ホストマザーからさまざまなことを教えてもらいました。デルフザイルでは人とすれ違おうと挨拶をすること、しかし、アムステルダムでは挨拶はしないことも聞きました。それから出会う人に積極的に挨拶をするようになりました。デルフザイルは人と人のつながりがある、とても良い街だと思いました。そしてエオリスの風車を訪れた際に風車の役割を知りました。風車が回ると石臼が小麦を削り小麦粉ができます。今まで知らなかったのでも驚きました。それから風車は上に登ることができ、眺めがとても良かったです。

ホストマザーはいつも私のことを心配してくれていました。オランダの気候は日本と違い少し肌寒いので寒くないか気遣ってくれていました。またお別れ会の際にはスピーチを読むのでもとても緊張していました。そのとき横に座っていたマザーが手をぎゅっと握ってくれて「大丈夫。」と言ってくれました。

- 3 この写真はデルフザイル市のホールから家に帰る途中に行った海の写真です。初めてホストファミリーと行った場所です。海はとても寒かったです。
- 4 散歩をしていたら偶然羊の群れが向ってきました。一匹の犬が羊の群れをまとめているのが分かりました。またホストファミリーもこの群れに出会うのは初めてだったらしくて私は運がいいと言われました。
- 5 私は初めて水上ボートに乗りました。水上ボートからの風景はとても美しく楽しかったです。



3 セレーナと私の海の写真



5 セレーナと私の水上ボートの写真



4 羊の大群と私

本当に嬉しかったです。そしてスピーチの練習をファミリーが何度も聞いてくれました。おかげで失敗することなく、スピーチをすることができました。本当に感謝しています。

ホストシスターのセレーナは同い年でした。セレーナは私に彼女がしていたネイルと同じものをしてくれました。とても可愛くて嬉しかったです。

ホストブラザーのロイはスポーツが得意です。一緒にバトミントンをした際もとても上手でした。またファミリーと話していて理解できないとロイが簡単にしてくれて、とても助かりました。

ヒンリッシュ家の皆さんに出会えて、本当に良かったと思っています。キャンプの際に散歩中、羊の群れと出会うことができました。それはホストファミリーも初めての光景でなかなか出会えないと言っていました。羊の群れの中に一匹の犬がいました。その一匹が羊の群れをまとめているのです。その光景を近くで見れて本当に良かったと思いました。

私にとってヒンリッシュ家の皆さんと過ごした時間は楽しく、短く感じました。そのため別れはとても辛かったです。しかし必ず自分で再びデルフザイルを訪れたいと思います。短い間でしたが多くの貴重な体験をさせてくれたヒンリッシュ家の皆さんに大変感謝しています。またこのような機会を与えてくれた周南市の皆さんや両親、本当にありがとうございます。そして訪問団の皆さん大変お世話になりました。私は皆さんと過ごした時間を一生忘れません。

平成 23 年度

Delfzijl

友好親善
訪問団



ホストファミリーのエメ市長とヒネカ夫人です
(私は真ん中)。日曜日に色々な場所に連れて行
ってくれました。とても楽しかったです。
お二人の笑顔は本当に素敵でした。

デルフザイル市友好親善訪問団に参加して



周南市役所企画総務部人事課

長尾 祐子

Yuko Nagao

周南市には海外に三つの姉妹都市があります。オーストラリア、ブラジル、そして今回訪問した、オランダのデルフザイル市です。これまで国際交流に関わりのなかった私にとって、恥ずかしながらこれら姉妹都市の知識はあまりありませんでした。友好親善訪問団の同行者のお話をいただいた時、英語も殆どできない私に務まるのだろうかと不安がありました。同行者として行くからには、団員みんなが期間中楽しく元気に過ごせるようにサポートすること、デルフザイル市と周南市との交流を深めることを自分の役割として果たそうと考えました。

デルフザイル市まで、飛行機やバスを乗り継いで十数時間以上かかりました。初めてデルフザイル市を見た時、たくさん緑や花に溢れたなんと美しい町だろうと思えました。また、こんな遥か遠い町と周南市との間に交流があることに不思議な思いがしました。

観光では元気いっぱいだったみんなも、いよいよホストファミリーとの面会ということで、少し緊張している様子でした。歓迎会の後、いよいよ各自ホストファミリーの家に向かいます。これからは、自分自身の交流が始まるのです。みんな大丈夫だろうか、私は少し心配しながら見送りました。

翌日、いつも通り元気いっぱいのみんながいました。私の心配は杞憂に終わったようです。私自身もエメ市長のお宅にホームステイだったので、実は私は少々緊張して過ぎました。本当にみんなの柔軟性には驚かされてばかりでした。様々なプログラムが用意されていて、ファームサムでのアクティビティや、企業視察、農場訪問など、いろいろな体験をさせていただきました。



みんながとても楽しそうにしていたことが目に焼き付いています。また、次第にホストファミリーと仲良くなっていくみんなは、本当に言葉の壁を越えた交流をしていました。私自身も、私の拙い英語を真剣に聞いてくださり、分かりやすいように話しかけてくださったエメ市長、ヒネカ夫人には本当にお世話になりました。お別れする時には、泣いていたみんな。私も、ヒネカ夫人に抱きしめられた時、感謝の気持ちで本当に胸がいっぱいになりました。

オランダから盛夏の日本に戻ってきて、もう何日が過ぎたでしょうか。しかし、私の中にはまだ、オランダで過ごした日々が、色鮮やかに息づいています。瞳を閉じれば、いつでもデルフザイル市の人々の笑顔を思い浮かべることができます。それほど、あの九日間はとても印象深い日々でした。デルフザイル市の皆さんが私たちに深い愛情を注いでくださったのも、これまでの交流の絆があったからこそだと思います。私たちもその礎になることができ、大変嬉しく思います。これからも、周南市とデルフザイル市の交流が末永く続いて行くことを願います。そして、このような貴重な経験をさせていただいた、関係するすべての方々に感謝します。ありがとうございました。



- 1 最終日の観光地、ユトレヒトのドム塔の上で、団員のみんなど。この後みんなは更に最上階に登って行きました。元気！私はリタイアです…
- 2 歓迎会でのエメ市長との記念写真です。スピーチ前はかなり緊張しています。この後スピーチは、なんとか無事に終わりました。
- 3 オランダに到着したのは朝の7時。霧の中の幻想的な風景でした。美しさに感動しました。
- 4 お世話になった関係者の皆さんとの夕食会です。右から、添乗員の矢野さん、私、姉妹都市交流財団のヨハネス夫妻、リチャード、事務総長さんです。皆さんには本当にお世話になりました。